

国指定史跡

おお まる やま こ ふん  
大丸山古墳  
— 災害復旧工事事業報告書 —

2021. 3

山 梨 県

国指定史跡

おお まる やま こ ふん  
大丸山古墳

— 災害復旧工事事業報告書 —

2021. 3

山梨県



## 史跡大丸山古墳の災害復旧工事あらまし

し せき おおまるやま こ ふん  
史跡大丸山古墳は、甲府盆地の南側にある旧中道町の曾根丘陵東山に4世紀中ごろ（今から約1650年前）に造られた山梨県内で3番目に古い古墳です。古墳の規模は約99mから120mとされ、山梨県で3番目に大きい前方後円墳です。平成25年に国の史跡に指定されています。

曾根丘陵は中道往還という、駿河と甲斐を結ぶ古くからの重要な交通路に面しています。そのため、曾根丘陵は文化の入口となり、丘陵の周辺には弥生時代から古墳時代にかけて多くの墳墓が築られました。特に、古墳時代前期には

こ びら さわ こ ふん 小平沢古墳や、てんじんやま こ ふん 天神山古墳、か い ちよう し 甲斐 銚子塚古墳、つ か こ ふん 丸山塚古墳など大規模な古墳が数多く造られました。大丸山古墳もその一つです。



雪の日の大丸山古墳



大丸山古墳出土品（複製品）

埋葬施設は、組合式石棺と竪穴式石室から成り、その石室からは全国的にも珍しい鉄製の甲よろいや手斧ちゆうな、石棺からは石枕いしまくらなどが発掘されました。出土品は東京国立博物館に保管されており、一部は平成館で観ることができます。複製品は山梨県立考古博物館で展示されています。

令和元年の台風19号の影響で古墳の周りがある木が倒れ、雨水で浸食されて史跡に指定されている範囲の一部法面が崩落してしまいました。今回の工事では古墳を保護するため、この崩落した箇所を復旧しました。



倒木の状況



崩落箇所の拡大



今後倒れる可能性のある樹木を伐採します。



崩れた斜面がこれ以上崩れないように、植生マットをはります。



植生マットをはり終わりました。木を切ったおかげで日が当たるようになりました。



工事が終了してから約1ヶ月後の様子です。マットから芽がでてきました。

## 序 文

大丸山古墳は、下部の組合式石棺と上部の竪穴式石室に分かれた構造の主体部をもつ4世紀に造られた前方後円墳です。

組合式石棺からは、三角縁日・月獣文帯三神三獣鏡をはじめ、管玉やガラス小玉といった装身具、朱が塗られた石枕、二体分の人骨が出土し、竪穴式石室には、<sup>たてはぎいたかわとじたんこう</sup>竪矧板革綴短甲や鉄剣・直刀などの武器、鉄製柄付手斧や鉋などの農工具が納められていました。

大丸山古墳の埋葬施設や副葬品は国内の古墳を見渡しても極めて珍しく、山梨県内のみならず、全国的にも考古学・歴史学の研究上、当時の人々の交流や文化を理解するうえで、とても重要な古墳で、平成25年10月31日に国の史跡に指定されました。

今回は、令和元年10月に日本各地で甚大な被害をもたらしました台風19号によって史跡指定範囲の一部が崩落したことによる災害復旧工事事業について報告いたします。

大丸山古墳が昭和4年に発掘されてから90年以上経過しております。未だにその全貌が明らかになっておりませんが、貴重な史跡を理解し、守り続ける事業の一環といたしまして本書をご活用いただければ幸いです。

令和2年3月

山梨県埋蔵文化財センター  
所 長 佐久間 浩之



## 例 言

- 1 本書は、山梨県甲府市下向山町に所在する国指定史跡大丸山古墳の災害復旧工事事業の報告書である。
- 2 災害復旧工事は、国庫補助をうけて令和2年7月8日～令和2年8月31日に実施した。
- 3 本書の執筆・編集は山梨県埋蔵文化財センター 史跡資料活用課の北澤宏明（文化財主事）と中村有希（文化財主事）が担当した。執筆の分担は中村があらましを担当し、そのほかは北澤によるものである。
- 4 本書で使用した写真は、工事請負者である株式会社富士グリーンテックから納品されたものと、山梨県埋蔵文化財センターが撮影したものがある。いずれも山梨県埋蔵文化財センターで保管している。
- 5 本事業にかかわる法的手続きは以下のとおりである  
令和2年 4月27日 山梨県埋蔵文化財センター所長より現状変更許可申請を文化庁長官に提出  
令和2年 6月19日 文化庁長官より現状変更許可（2受文庁第4号の337）  
令和2年 9月30日 山梨県埋蔵文化財センター所長より現状変更終了報告を文化庁長官に提出
- 6 本書の作成にあたり、相川吉保氏、長坂公則氏・伊藤文昭氏（曾根丘陵公園指定管理者：富士観光開発・富士グリーンテックグループ）、平塚洋一氏（甲府市教育委員会歴史文化財課）、碓井公貴氏（県土整備部中北建設事務所）、には御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。



# 目次

序	第1節 工事方針	7
あらまし	第2節 組織	8
例言	第3節 体制と役割	8
目次	第4節 経過	8
第1章 大丸山古墳について	第5節 事業費	9
第1節 大丸山古墳の概要	第6節 施工実績	10
第2節 地理的環境	第4章 災害復旧工事の内容	
第3節 歴史的環境	第1節 工事の概要	10
第2章 大丸山古墳に係る調査と史跡指定	第2節 具体的内容	10
第1節 大丸山古墳の既往の調査	第3節 工事後の経過	19
第2節 史跡指定の経過	第5章 まとめ	
第3節 史跡指定の概要	参考文献	20
第3章 災害復旧工事の方針・組織・経過	抄録・奥付	

# 挿入図

第1図 大丸山古墳主体部	第21図 樹木伐採工の施工後1	15
第2図 大丸山古墳出土品	第22図 樹木伐採工の施工前2	16
第3図 日本列島と大丸山古墳の位置	第23図 樹木伐採工の施工後2	16
第4図 大丸山古墳と周辺の古墳・ 古墳時代の遺跡	第24図 植生マット設置の方法1	16
第5図 昭和4年の大丸山古墳の発掘	第25図 植生マット設置の方法2	16
第6図 大丸山古墳墳丘測量図（昭和46年）	第26図 材料検査の様子	17
第7図 大丸山古墳墳丘測量図（昭和51年）	第27図 植生マット設置状況1	17
第8図 大丸山古墳の史跡指定範囲と 災害復旧工事範囲	第28図 植生マット設置状況2	17
第9図 看板設置作業	第29図 植生マット施工確認状況	17
第10図 看板設置状況	第30図 植生マット施工前	17
第11図 伐採樹木の確認状況	第31図 植生マット施工後	17
第12図 植生マット施工範囲の確認状況	第32図 現地協議の様子	18
第13図 大丸山古墳の史跡指定範囲と 工事範囲	第33図 完了検査の様子	18
第14図 作業従事者への説明	第34図 災害復旧工事施工前1	18
第15図 既倒木の精査状況	第35図 災害復旧工事完了後1	18
第16図 樹木伐採工の様子	第36図 災害復旧工事施工前2	18
第17図 樹木伐採工の立会状況	第37図 災害復旧工事完了後2	18
第18図 伐採木の集積作業状況	第38図 災害復旧工事施工前3	19
第19図 伐採木の集積状況	第39図 災害復旧工事完了後3	19
第20図 樹木伐採工の施工前1	第40図 工事後の経過（令和2年9月）1	19
	第41図 工事後の経過（令和2年9月）2	19
	第42図 工事後の経過（令和3年2月）1	19
	第43図 工事後の経過（令和3年2月）2	19

# 第1章 大丸山古墳について

## 第1節 大丸山古墳の概要

大丸山古墳は、甲府市（旧中道町）に所在し、甲府盆地南側に東西に伸びる曾根丘陵の東山と呼ばれる丘陵の中腹に位置する、墳長99～120m、高さ約10mの前方後円墳である。

昭和4年に地元住民の手によって、大形の花崗岩で造られた組合式石棺の上に安山岩製の竪穴式石室をもつ主体部が発掘された<sup>1)</sup>（第1図）。

組合式石棺から男女2体の人骨とともに、朱が施され、頭部を受ける窪みが二つある石枕や八禽鏡、三角縁日・月獣文帯三神三獣鏡、画文帯環状乳三神三獣鏡といった3面の鏡、勾玉・管玉、ガラス玉といった装身具が納められていた。上部の竪穴式石室からは、竪矧板革綴短甲<sup>2)</sup>や鉄剣・鉄刀・鉄鏃といった武器・兵器、鉄製柄付手斧<sup>3)</sup>、短冊鉄斧、袋状鉄斧、ヤリガンナ、鋸、鑿、鎌、刀子といった農工具が納められていた。

出土品のなかでも、竪矧板革綴短甲と鉄製柄付手斧は特に注目されてきた資料である（第2図）。列島の中で初期段階の資料と想定されている。古墳の年代は、4世紀中頃と考えられている。

### 註

(1) 大丸山古墳の主体部は、上下二段に分かれる構造として報告され（仁科 1931）、上田三平は上部の竪穴式石室は副葬品を納めるための下部の組合式石棺の副室として認識し、京都府妙見山古墳との類似を指摘した（上田 1942）。

近年でも奈良県新山古墳・京都府妙見山古墳と類似する組合式石棺の蓋石上に竪穴式石室状の空間を造りだす構造（山本 2010）として評価され、上部の施設は埋葬の空間としての機能をもたないことを示唆（北山 2011）するという。また、発掘調査では明らかになっていないが、類例にあるように組合式石棺の西側には小石室をもつ可能性が指摘されている（宮澤 2019）。一方で上下二段に分かれる構造ではなく、組合式石棺を納めた竪穴式石槨という一連の埋葬施設とする見解（小林 2009）もある。

本書では主体部に関する内容に踏み込むことができないので、上段の施設について、ひとまず竪穴式石室と明記する。

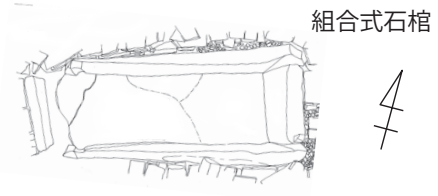
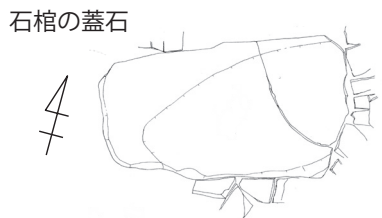
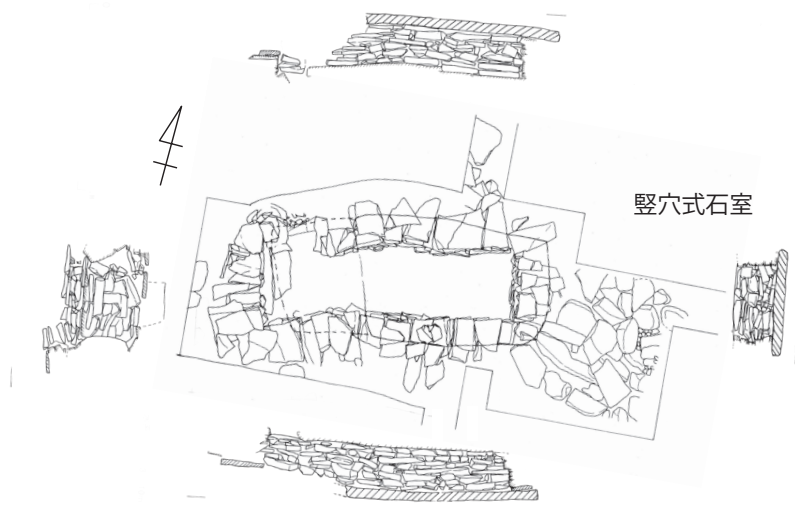
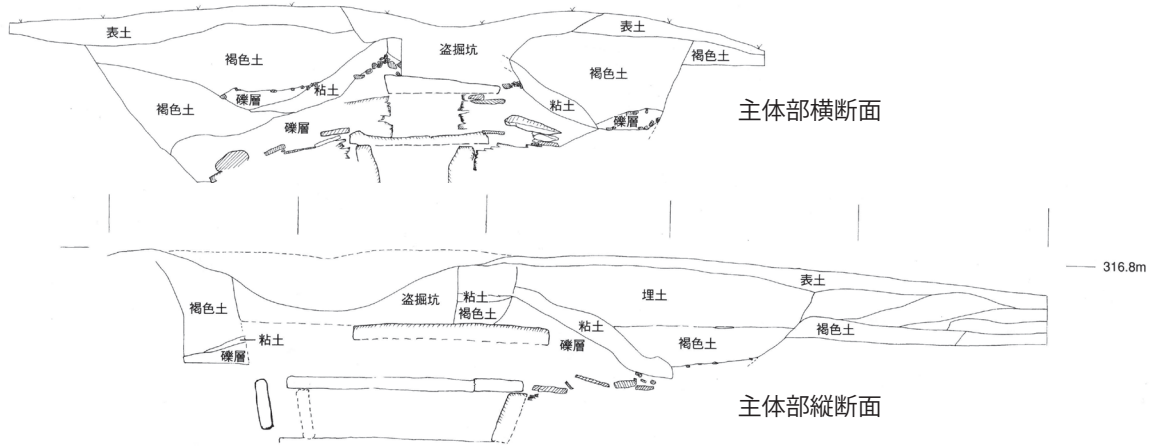
石棺は、4世紀中頃から後半の時期に組合式石棺（長持形石棺）や割竹形石棺・舟形石棺が各地の埋葬施設で採用されはじめた。組合式石棺は山本三郎によって古墳時代中期の竜山石で造られた典型的な長持形石棺の祖型とされる大阪府松岳山古墳例（小林 1957）に代表される松岳山タイプ（奈良県橿山古墳・岡山県花光寺古墳・佐賀県谷口古墳）と先述のように竪穴式石室状の施設を上部にもつ妙見山タイプ（新山古墳・大丸山古墳）に分けられる。さらに二類型とは別に奈良県佐紀陵山古墳も組合式石棺をもつ特異な構造であり組合式石棺をもつ古墳は大型の首長墳に採用されている（山本 2010）。大丸山古墳は大和地域東南部地域との関係性（宮澤 2019）があり、当該時期のなかで先駆的な主体部をもつ古墳の一つといえる。

讃岐地域に代表されるような舟形石棺には、造り付きの石枕をもつものがある。大丸山古墳は頭部を受ける窪みが二つある石枕をもち、大丸山古墳をさらに理解・評価していく材料として石棺と石枕の関係を今後考えていく必要もあるだろう。

(2) 竪矧板革綴短甲は、帯金式甲冑登場以前の甲冑形式であり、大丸山古墳のほかに岡山県奥の前1号墳、大阪府紫金山古墳で出土しているほかに今のところ例はなく4世紀の古墳にみられる。そのなかでも大丸山古墳例は17枚の鉄板で構成される短甲で押付板や引合板をもたない構造である。学史的にも他の短甲と比べて異質な構造であるとされ（末永 1933、後藤 1937など）、短甲の系譜上にありながらも一線を画す資料である（橋本 1998）。

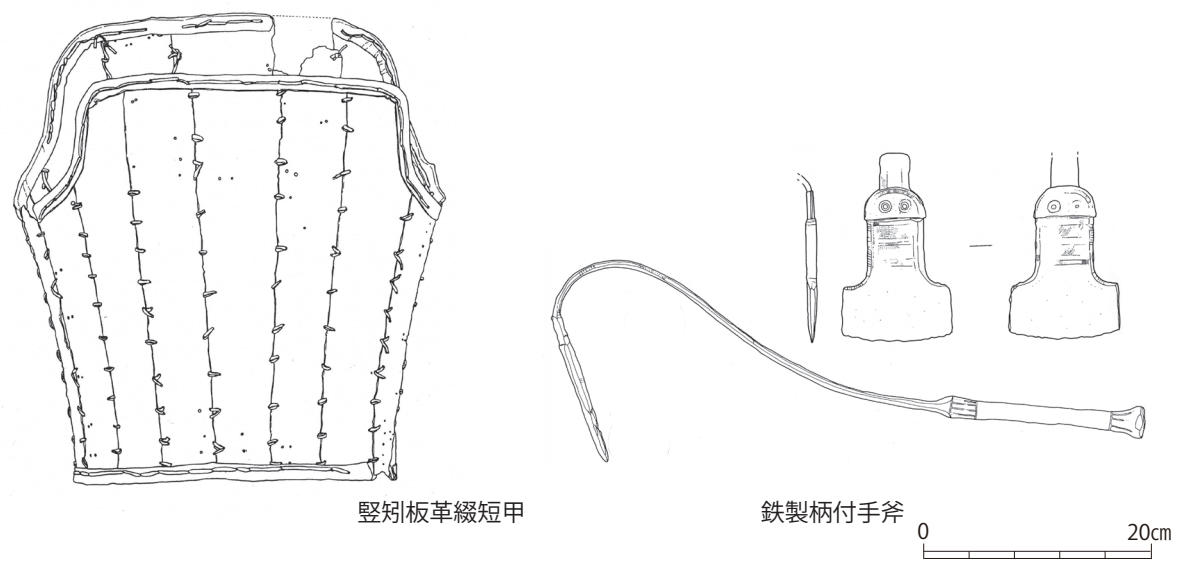
その評価については、橋本達也は、奥の前1号墳例と合わせて押付板や竪上板が無く、また後胴と前胴の高さの差があまりないことから短甲の原初的な例として考え、朝鮮半島にある縦長板板甲に類似するとしている（橋本 2019）。澤田秀美は、奥の前1号墳例のほうが地板の幅がひろく、枚数が少ないことや個々の地板形態が単純な竪板であることなどから奥の前1号墳例が大丸山古墳に先行する可能性があると指摘し（澤田 2004）、阪口英毅も大丸山古墳例は奥の前1号墳例から前胴正面を引き合わせる属性を無くした派生品と理解されている（阪口 2007）。

(3) 鉄製柄付手斧は、列島内で14古墳から50例ほど確認され、古墳時代前期から中期にみられる（河野 2014）。本来は木製の柄をもつ手斧だが、これらは鉄柄にかえられた非実用品として評価されている（宮澤 1989）。大丸山古墳例は、大丸山古墳例は丸や鋸歯文状の装飾的な線刻があり、本来の機能とは関係のなく朝鮮半島からの外来系技術によるものと評価されている（河野 2018）。その年代も形態の特徴から列島内の最古型式にあたると思われる（宮澤 1989）。



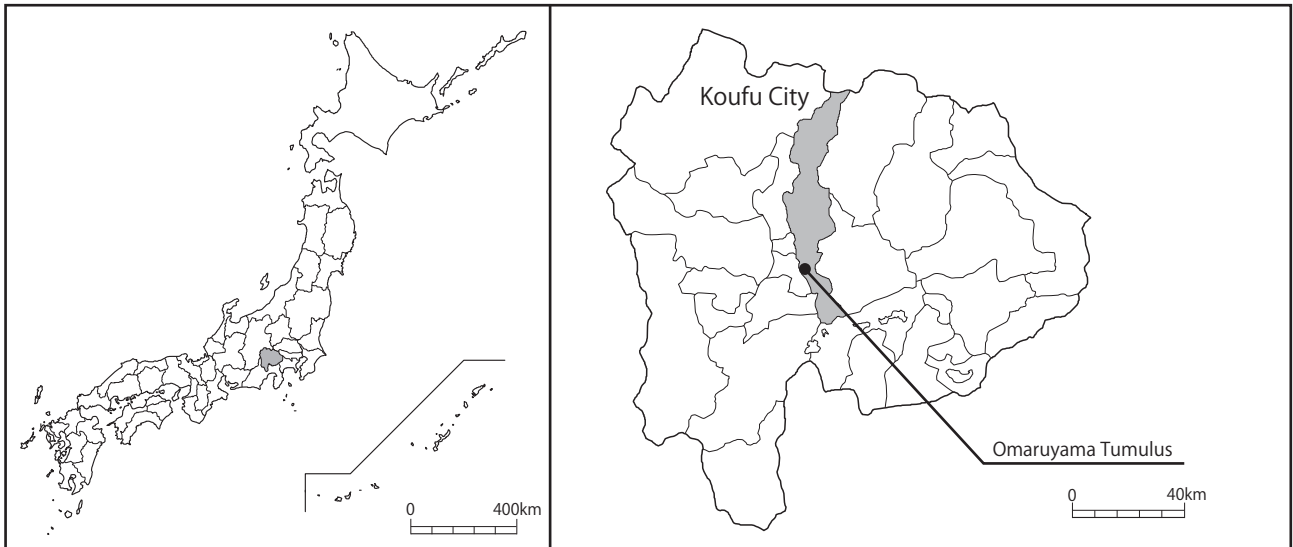
0 1:80 4m

第1図 大丸山古墳主体部  
(茂木編 2007 より一部改変)



第2図 大丸山古墳出土品 (山梨県編 1999 より)

## 第2節 地理的環境



第3図 日本列島と大丸山古墳の位置

大丸山古墳は山梨県の中央、甲府盆地の南縁の曾根丘陵に位置し、山梨県甲府市（旧中道町）下向山町に所在し、現在は甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内にある。

甲府盆地は、東西に長いやや逆三角形形状を呈し、西縁を糸魚川―静岡構造線活断層系に、北縁を水ヶ森火山や黒富士、茅ヶ岳に、南縁を曾根丘陵活断層帯に囲まれた構造盆地であり、曾根丘陵は多数の活断層によって形成されている。

曾根丘陵は、甲府盆地南縁部の東西約12.5km、南北約4kmに広がる丘陵地帯の総称で丘陵の背後には、標高1200m～1700mほどの御坂山塊が広がっている。

北側には沖積地を挟んで笛吹川が北東から南西の方角へ流れている。

曾根丘陵の標高は270m～400mを計り、御坂山塊から流れる中小河川によって曾根丘陵は浸食され、いくつかの舌状台地を形成しており、河川は盆地内に合流する。

大丸山古墳は、曾根丘陵の西側を南東から北西の方角に流れる滝戸川と東側から北西の方角へ流れる間門川によって形成された東山と呼ばれる丘陵の中腹の台状地形上、標高約350mにある。東山の頂部は平坦面になっており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて営まれた方形周溝墓群で知られる上の平遺跡や東山南遺跡、宮の上遺跡などが展開する。また、東山の丘陵下の傾斜変換点には、前方後円墳である銚子塚古墳や大形の円墳である丸山塚古墳、岩清水遺跡・かんかん塚古墳などが築かれた。

なお笛吹川と曾根丘陵に挟まれた沖積地の平坦面は、湿度が高く湿地帯のような状態であったといわれ、1m程度土を掘ると水が湧き出す環境である。

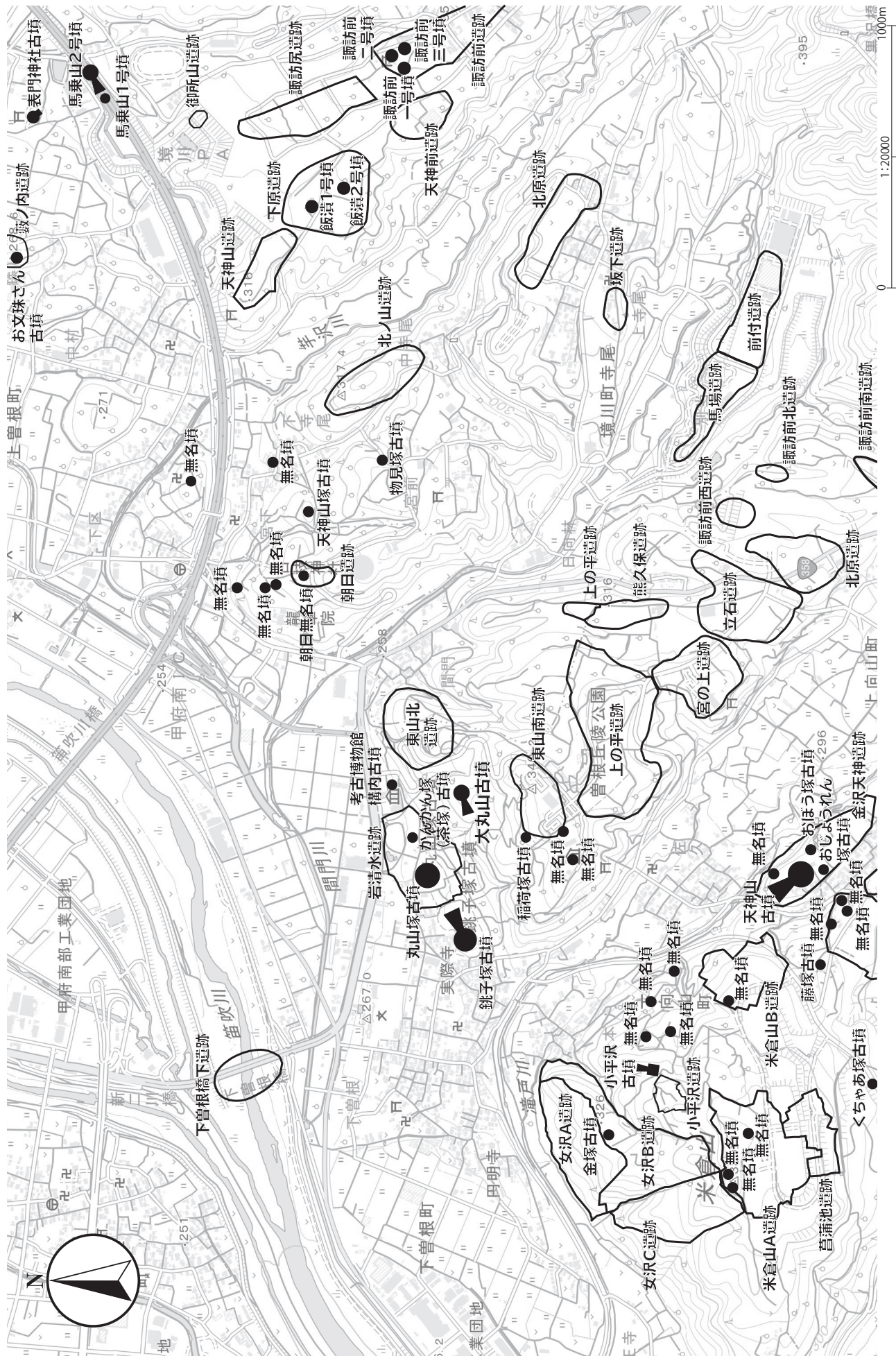
## 第3節 歴史的環境

大丸山古墳のある曾根丘陵は、旧石器時代から古墳時代の遺跡が見られ、なかでも弥生時代後期以降から古墳時代にかけての墳墓が集中して営まれた地域である。

弥生時代後期以降から方形周溝墓が営まれた上の平遺跡は、古墳時代初頭にかけて計126基が営まれ、隣接する宮の上遺跡では方形周溝墓が造られた。

4世紀前半になると、米倉山の中腹に前方後円墳である全長45mの小平沢古墳が登場し、甲府盆地でも大形の古墳の造営がはじまる。小平沢古墳は墳丘から斜縁二神二獣鏡・勾玉・土師器が出土しているが、主体部構造はわかっていない。これに続き、全長132mの前方後円墳である天神山古墳、東山の中腹に全長99m～120mとされる前方後円墳の大丸山古墳、全長169mを誇る当該時期の東日本で最大の銚子塚古墳、直径72mの丸山塚古墳といった大規模な墳墓が継続して営まれる、東日本でも重要な場所であった。

特に銚子塚古墳は、竪穴式石室から三角縁神獣車馬鏡といった青銅鏡や、碧玉製の車輪石・石釧、スイジガイ製の腕輪、硬玉製の石杵などが出土している。墳丘には円筒埴輪・朝顔形埴輪・壺形埴輪と合わせて木製祭祀具が立てられているなど、特筆される古墳である。また丸山塚古墳も竪穴式石室から環状乳神獣鏡や鉄製武器・農



第4図 大丸山古墳と周辺の古墳・古墳時代の遺跡

工具が出土しており、墳丘には埴輪が立てられていた。大丸山古墳の東側にある東山北遺跡では4世紀後半とされる30mの大形の方形周溝墓があり、周溝内からウマの骨が出土しており、前方後円墳の造営と併行して、伝統的な方形周溝墓も造られ続けた。

古墳時代中期になると、米倉山・東山地域では大規模な墳墓が営まれなくなるが、小規模な墳墓は継続する。5世紀中ごろの円墳のかんかん塚（茶塚）古墳は甲冑や鉄剣・鉄刀・鉄鉾などの武器、鑣轡・木芯鉄地輪鏡・三環鈴といった馬具が出土している。また、東山南遺跡や岩清水遺跡、東山地域の東側にある朝日遺跡でも円形の低墳丘墓が営まれ、5世紀前半から中ごろ段階の須恵器・土師器が出土している。5世紀後半には、四つの組合式石棺をもった円墳の馬乗山1号墳があり、甲府盆地最後の前方後円墳である馬乗山2号墳もこのころに造られたと考えられている。

古墳時代後期になると、6世紀前半頃の表門神社古墳は、帆立貝式古墳と考えられており、墳丘には円筒埴輪・蓋形埴輪などがみられる。6世紀後半以降、横穴式石室をもつ考古博物館構内古墳や稲荷塚古墳が東山地域に造られ、稲荷塚古墳では銀象嵌大刀と銅碗などが出土している。同時期の古墳として米倉山地域ではくちやあ塚古墳が存在する。

## 第2章 大丸山古墳に係る調査と史跡指定

### 第1節 大丸山古墳の既往の調査

大丸山古墳にかかわる調査は、昭和4年の地元住民による埋葬施設の発掘、昭和44年の墳丘測量・昭和46年から昭和47年にかけて行われた埋葬施設の再調査、昭和51年の墳丘測量がある。

以下、昭和4年、昭和44・46・47年、昭和51年の調査内容についてその概要を述べる。

#### ① 昭和4年調査

銚子塚古墳の発掘が行われた翌年の昭和4年（1929）に地元住民の手により埋葬施設の発掘が行われた。

上部の竪穴式石室から鉄製柄付手斧、竪矧板革綴短甲、短冊鉄斧、袋状鉄斧、鉋鑿、鋸、鉄剣、鉄刀などが出土し、下部の組合式石棺から、成人男女一体ずつの人骨とともに、朱が塗られた花崗岩製の石枕、八禽鏡・環状乳獣帯鏡・三角縁日月神獣鏡といった青銅鏡、ガラス小玉が出土した。

この発掘の成果は2年後の1931年に仁科義男によって、埋葬施設や出土品の図面・写真などが報告された。

発掘後、出土品は石和警察署に持ち込まれ、大部分<sup>1)</sup>は、東京帝室博物館（現・東京国立博物館）によって購入され、現在も所蔵・展示されている。

#### ② 昭和44・46・47年調査

昭和44年（1969）には、三木文雄・茂木雅博・轟俊二郎等によって墳丘の測量調査が実施され、昭和46・47年（1971・1972）には再度埋葬施設の調査が行われた。この成果は、まず三木によって『中道町史』上巻に掲載され、墳丘測量図がはじめて公開されるとともに大丸山古墳が99mから120m規模の前方後円墳であるということが明らかとなった（三木1975）。また合わせて昭和4年の出土品についても整理・報告をしている。

この昭和44・46・47年の調査成果は、後年に『甲斐大丸山古墳』として調査報告書が刊行され（茂木編2007）、墳丘測量の成果や埋葬施設の詳細な状況が明らかとなった（第1・6図）。また墳丘上で採集された土師器片が報告され、4世紀中頃の年代が与えられている（塩谷2007）。

#### ③ 昭和51年測量調査

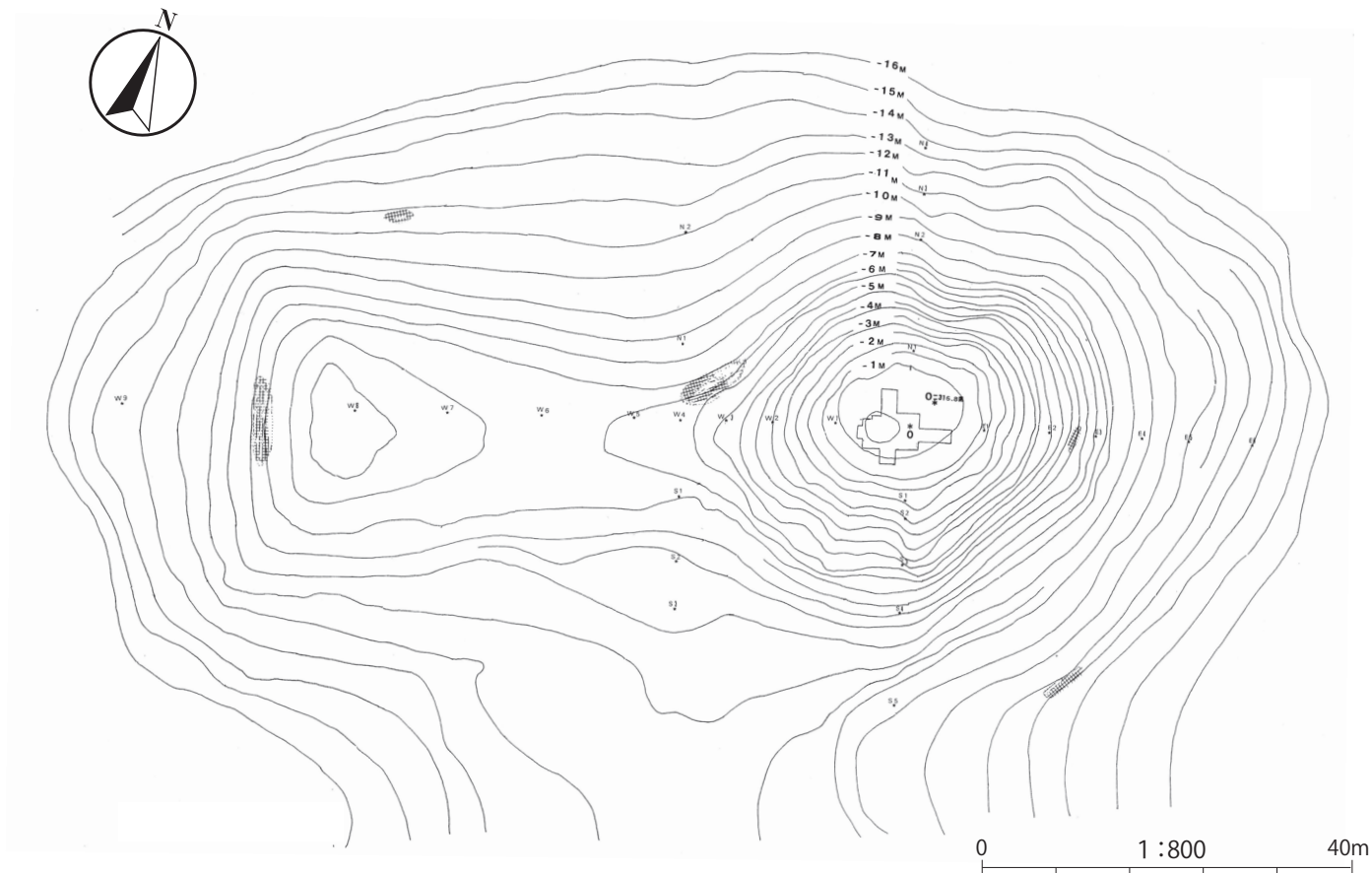
昭和51年には、山梨県教育委員会によって墳丘測量調査が行われた（第7図）。

註

（1）出土した鉄鋸は山本寿々雄氏が所有していたが、氏が他界した際にご遺族によって山梨県立考古博物館に寄贈された。



第5図 昭和4年の大丸山古墳の発掘



第6図 大丸山古墳墳丘測量図 (昭和46年) (茂木編 2007より)



第7図 大丸山古墳墳丘測量図 (昭和51年)

## 第2節 史跡指定の経過

大丸山古墳は、風土記の丘建設が昭和48年（1973）に決定し、計画のなかに大丸山古墳も含まれた。その後、国の文化審議会によって国史跡への答申が昭和50年（1975）になされたが、土地所有者から同意が得られず、答申から40年後の平成25年（2015）に指定された。また、翌年には山梨県が管理団体として指定された。

## 第3節 史跡指定の概要

種 別：国史跡

名 称：大丸山古墳

所在地・地番：山梨県甲府市下向山1338番地・1384番地

土地所有者：個人・山梨県

指定年月日：平成25年10月31日 平成25年文部科学省告示第154号

指定地の面積：約27.501㎡

管理団体 （1）山梨県

（2）平成26年10月17日 平成26年文化庁告示第44号

指定理由 （指定基準）史跡の部第一（貝塚、集落跡、古墳その他この類の遺跡）

（説 明）文化庁“大丸山古墳 おおまるやまこふん”.文化遺産オンライン.

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/208367/2>(参照2021-01-11)より引用

大丸山古墳は、甲府盆地の東南沿いを流れる笛吹川の中流域、その左岸に位置する丘陵の尾根を利用して作られた古墳時代前期に属する前方後円墳である。

この古墳は昭和4年に地元住民などにより発掘され、特異な埋葬施設から多くの出土遺物が確認された。その後、中道町（現・甲府市）によって昭和44年に測量調査が、昭和46年に埋葬施設の発掘調査が行われた。

古墳の規模は墳長約105m、後円部径約48m、前方部幅約37mであり、墳丘が良好に遺存している。埋葬施設は後円部の西南に位置し、構造が特異な竪穴式石室である。南北6.5m、東西7.6mほどの墓坑の中央に、花崗岩製の長さ約2.8m、幅1.4mの組合式石棺を設置し、その上に東西約2.7m、南北約0.8m、高さ約0.4mほどの竪穴式石室を構築している。

石棺内からは2体の人骨と青銅鏡3面、玉類などが発見され、石棺の上部からは鉄製の刀剣や鏃、短甲のほか、手斧などの鉄製工具類が多数出土している。

このように、大丸山古墳は墳丘が良好に残存していることに加え、特異な構造の埋葬施設の存在や多数の副葬品の内容から、当該地域の古墳文化の成立を考える上で貴重な事例であることから、史跡として指定し保護を図るものである。

## 第3章 災害復旧工事の方針・組織・経過

### 第1節 工事方針

本工事は、国指定史跡である大丸山古墳を復旧し、適切な史跡の保存と活用を図るために実施する。

緊急的な災害復旧工事として速やかに毀損箇所を復旧する。また今後、毀損やその危険性を誘発する要因について対処するために工事を行う。

災害復旧工事にあたり、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議する山梨県文化財保護審議会（史跡部会）と協議し、史跡の現況と被害状況に合わせて施工する。

工事は、文化財保護の観点から文化財監督員を設置して工事の指導・管理・検査を行う。



## 第2節 組織

### 【県観光文化部・文化振興文化財課】

課長 河野 公紀  
総括課長補佐 浅川 美和

### 【県埋蔵文化財センター】

所長 佐久間浩之  
次長 今福 利恵  
三枝 裕幸

### [埋蔵文化財担当]

課長補佐 保坂 和博  
主査・文化財主事 野代 恵子

### [史跡資料活用課]

課長 野代 幸和  
主査・文化財主事 依田 幸浩  
文化財主事 北澤 宏明  
文化財主事 中村 有希

### 【工事請負者】

工事請負者 株式会社富士グリーンテック 森 明彦  
施工管理者 株式会社富士グリーンテック 横田 広

## 第3節 体制と役割

ここでは本事業において担った役割について述べる。

### 県観光文化部 文化振興・文化財課

史跡の管理、企画及び調整を行う。史跡の指定と現状変更および埋蔵文化財の保護、史跡の保護および埋蔵文化財の調査等に関する指導助言を行う、本事業の企画・調整を行った。

### 県埋蔵文化財センター

県内埋蔵文化財の調査研究、指導および助言、史跡の整備・活用、広報等を行う。本事業では、現状変更許可申請、施工業務の発注、施工業者とのやり取り、工事の監督・立会を行った。

### 工事請負者

本事業の施工を担当した。

### 県中北建設事務所、曾根丘陵公園指定管理者

都市公園曾根丘陵公園の管理及び占用許可等の手続きを行った。

## 第4節 経過

令和元年6月25日に県文化財保護審議委員（史跡部会）において、大丸山古墳が所在する甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に分布する古墳等の現地視察を行った際に、大丸山古墳についても現状の確認を行った。委員からは、今回の復旧対象地については、史跡指定地の中でも特に傾斜が著しい箇所であることから、その危険性について指摘があった。対象地については、古墳の墳丘本体から（約100m）離れており、即座に墳丘に影響が生じる場所ではなく、また、民地であり、一般の立ち入りができない場所であることから、すぐに周辺等への危険が生じるものではないと判断し、当該箇所の経過観察を行いながら対応策について検討することとした。

その後、令和元年10月12日に日本各地に被害をもたらした台風19号によって倒木や雨水の浸食等が発生し、史跡指定地の一部が崩落した。このため、現地の状況を確認するとともに、対応策について検討する中で、令和元年11月19日に県文化財保護審議会（史跡部会）において、復旧方法等についての意見をいただいた。周辺を含めた被害の状況を確認後、令和元年12月18日付けで文化庁に毀損届を提出した。倒木および崩落箇所は史跡指定地のなかでも特に傾斜が著しく、今後さらなる被害が想定でき、史跡の適切な保存を図ることを目的に既倒木の除去と今後法面の崩落につながる可能性がある樹木の伐採と崩落箇所の処置として植生マットの設置を内容とする災害復旧工事を実施することとなった。工事の内容については第3章に詳述する。

## 大丸山古墳史跡復旧事業日誌

日 付	内 容
4月27日	埋蔵文化財センター所長より現状変更許可申請を文化庁長官に提出。 工事発注に先立って、文化振興・文化財課と埋蔵文化財センターで現地協議。
5月7日	曾根丘陵公園の指定管理者に工事内容の説明。
6月1日	文化振興・文化財課と埋蔵文化財センターは土地所有者に工事内容を現地にて説明。
6月19日	文化庁長官より現状変更許可（2受文庁第4号の337）。
7月8日	工事請負者と契約し、工事着工届を受領する。
7月14日	工事請負者が立ち入り防止のためのトラロープ張り看板の設置。
7月22日	工事請負者が工事立て看板を設置、埋蔵文化財センターが現状変更許可・大丸山古墳の概要を設置。
7月27日	起工測定の立会。
7月30日	樹木伐採工開始。伐採作業者に事業内容を説明。
7月31日	樹木伐採工の立会。
8月7日	樹木伐採工の立会。
8月14日	既倒木に付着する土の精査を実施。遺物の検出なし。
8月17日	既倒木に付着する土の精査を実施。地山層は、しまりのある褐色土に (Hue10YR4/4 褐) 風化した花崗岩が土壌に混じる。遺物の検出なし。
8月18日	植生マットの施工開始。実施前に施工業者に事業内容の説明。施工材料の確認。施工立会。同日施工終了。
8月20日	工事の完了検査前に関係者で確認・協議を行い、工事内容に問題や不具合等が無いことを確認。 参加者：文化振興・文化財課、埋蔵文化財センター、中北建設事務所、曾根丘陵公園指定管理者、株式会社富士グリーンテック（工事請負者）
8月27日	工事の完了検査を実施し、問題なし。工事完了。 参加者：考古博物館（総務課）、埋蔵文化財センター、株式会社富士グリーンテック（工事請負者）
8月28日	工事看板の撤去。
8月31日	工事請負者より、業務完了報告書・成果品引渡届を受領。
9月30日	埋蔵文化財センター所長より現状変更終了報告を文化庁長官に提出。

## 第5節 事業費

本事業にかかわる歳入と歳出は以下のとおりである。（単位：円）

歳入内容	国庫補助金（(史)大丸山古墳（災害復旧）歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業）	1,715,000
	県費（一般財源）	736,000
	合 計	2,451,000
歳出内容	需用費（印刷製本費）	215,000
	役務費（通信運搬費）	117,000
	工事請負費	2,112,000
	合 計	2,444,000

## 第6節 施工実績

本節では、本工事に係る実績について報告する。

### 工事概要

1	事業名	大丸山古墳史跡復旧事業
2	工事名	大丸山古墳史跡復旧工事
3	工事場所	甲府市下向山 1338 番地内
4	請負者	株式会社 富士グリーンテック
5	工期	令和2年7月8日～令和2年8月31日
6	工事金額	¥2,112,000
7	工事数量	起工測量1式、伐採工43本、植生マット設置工55.6㎡
8	実施工程	令和2年7月8日～令和2年8月28日

### 工程表

遺跡名	史跡大丸山古墳（甲府市下向山1338番地地内）	工事名	古墳史跡復旧工事	工事場所	大丸山古墳史跡史跡範囲（甲府市下向山1338番地地内）
月別進捗状況					
工種	月別作業量	7月		8月	
準備工	1式	■			
樹木伐採工	43本		■		
植生マット設置工	55.6㎡			■	
書類作成	1式			■	

## 第4章 災害復旧工事の内容

### 第1節 工事の概要

工事は、史跡指定範囲地の約 200㎡を対象とし、既倒木と今後風雨によって倒木する可能性がある 43 本の樹木の伐採を行ったのちに、台風による崩落箇所のうち 55.6㎡の範囲に法面の安定を目的に植生マットを施工した。

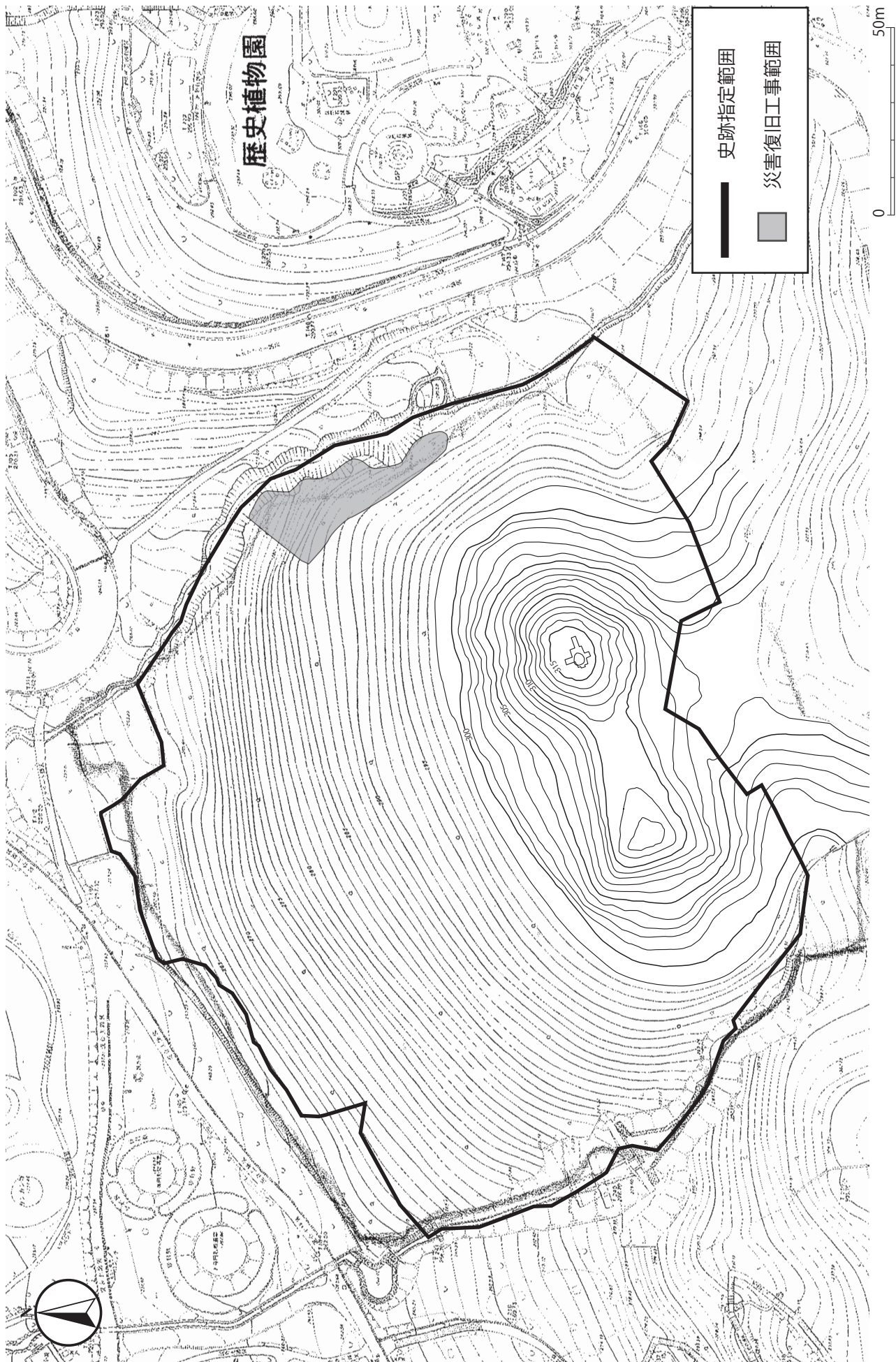
なお、施工範囲は古墳の墳丘から離れているため古墳への影響はない。

工事に関する施工内容やその状況については第2節で述べる。

### 第2節 具体的内容

#### ① 看板設置

工事範囲は、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内にあり、一般の公園利用者も立ち入る危険の防止と工事の実施を周知させることを目的に、園路から工事対象地の入り口にトラロープを張り、工事看板を設置した。併せて、大丸山古墳の概要を説明した看板を設置し史跡の普及啓発に努めた。



第8図 大丸山古墳の史跡指定範囲と災害復旧工事範囲（曾根丘陵公園平面図と大丸山古墳平面図（茂木 2007）に一部加筆変更し作成）



第9図 看板設置作業



第10図 看板設置状況

### ②起工測量

施工に先立って、起工測量を実施し、伐採樹木と植生マットの施工範囲を確認した。



第11図 伐採樹木の確認状況



第12図 植生マット施工範囲の確認状況

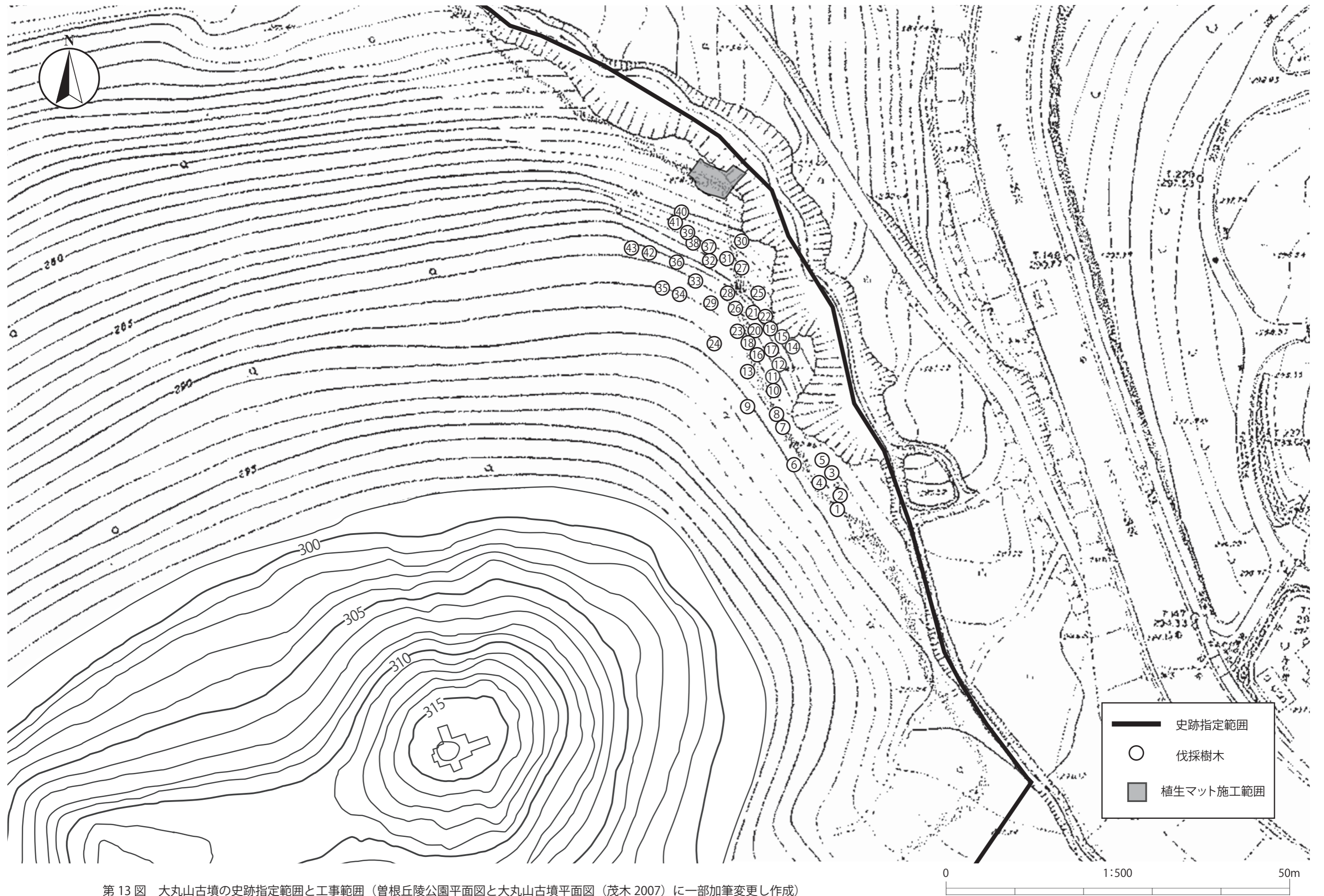
### ③樹木伐採工・伐採木集積工

伐採作業に先立って作業従事者に対して現状変更の許可内容、大丸山古墳の概要を説明し、史跡における工事の注意点に加え、史跡の重要性や歴史的価値について理解を深めた。

伐採にはチェーンソーを利用し、合計43本の樹木を伐採した。伐採樹木のうち39番は、台風19号の風雨によって既に根元から倒れ、根は土壌を巻き込んでおり、大丸山古墳にかかわる遺物が検出される可能性があったため、精査を行ったが、検出されなかった。

伐採した樹木は、施工範囲の東側の史跡指定範囲地外に移動させ、安置しやすい大きさに切って集積した。伐採樹木の詳細は、以下に示すとおりである。

幹周	本数	樹木番号
幹周 30cm 未満	3本	14・19・22
幹周 30cm～60cm 未満	5本	3・8・16・30・31
幹周 60cm～90cm 未満	20本	5・6・7・12・13・15・18・20・23・25・26・28・29・32・34・37・38・39・40・43
幹周 90cm～120cm 未満	10本	1・2・9・17・27・33・35・36・41・42
幹周 120cm 以上	5本	4・10・11・21・24



第13図 大丸山古墳の史跡指定範囲と工事範囲（曾根丘陵公園平面図と大丸山古墳平面図（茂木 2007）に一部加筆変更し作成）



第 14 図 作業従事者への説明



第 15 図 既倒木の精査状況



第 16 図 樹木伐採の様子



第 17 図 樹木伐採の立会状況



第 18 図 伐採木の集積作業状況



第 19 図 伐採木の集積状況



第 20 図 樹木伐採の施工前 1



第 21 図 樹木伐採の施工後 1



第 22 図 樹木伐採工の施工前 2



第 23 図 樹木伐採工の施工後 2

④植生マット施工

上述した樹木伐採工・伐採木集積工同様と作業従事者が異なるため、改めて、事前説明を行った。また、使用する材料については事前に確認を行った。

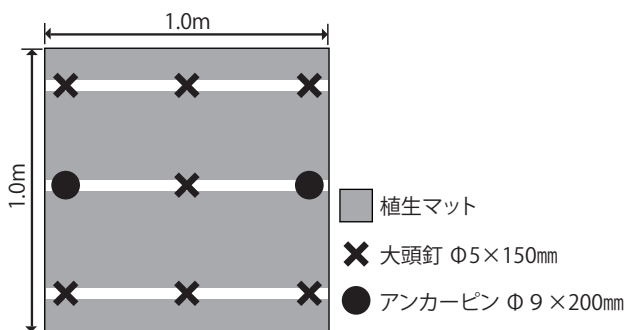
植生マットの施工範囲は、48㎡を予定していたが、作業の安全対策を考慮した結果 55.6㎡となった。植生マットは金属製のアンカーピンと大頭釘によって打設した。

植生マットに用いた種子は、現況植生に配慮しつつ発芽率の高いものを選んだ。

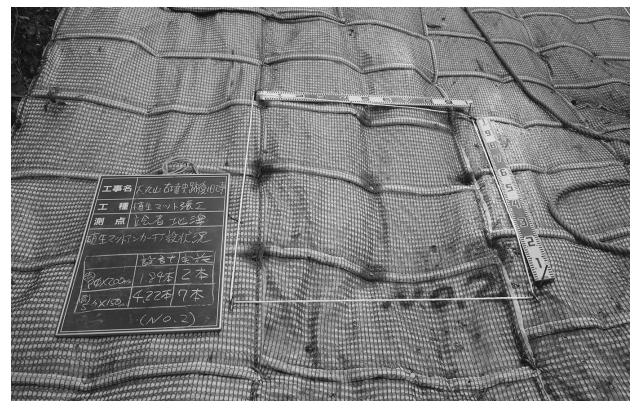
植生マットの仕様と設置方法については以下に示す。

植生マットの仕様

種 別	数 量 等	備 考
品 名	ロンタイ株式会社製 ダブルロンケットアナコンダ I-40	
仕 様	巾 1m、長さ 10m 梱包 20㎡	
種子配合 (特殊配合) (合計 100%)	クリーピングレッドフェスク (39.5%)、バミューダグラス (20.3%)、ホワイトクローバー (11.5%)、コロニアルベントグラス (10.1%)、よもぎ (6.7%)、めどはぎ (5.8%)、ケンタッキーブルーグラス (2.8%)、やまはぎ (1.4%)、やまはんのき (1.4%)、やしあぶし (0.5%)	種子配合率は、粒数% (=各草種の粒数/全装着粒数) で表示
種子装着粒	10 種混合 13,000 粒/㎡以上	
発 芽 率	外来草本 80% 在来草本・木本 50% 以上	発芽率は、全草種の平均発芽率
肥 料	各種肥料 (肥料袋間隔 40cm) 205.0g /㎡	
土壌改良材	各種土壌改良材 282.0g /㎡	



第 24 図 植生マット設置の方法 1



第 25 図 植生マット設置の方法 2





第 26 図 材料検査の様子



第 27 図 植生マット設置状況 1



第 28 図 植生マット設置状況 2



第 29 図 植生マット施工確認状況



第 30 図 植生マット施工前



第 31 図 植生マット施工後

### ⑤検査等と工事の完了

工事終了後、関係機関と施工内容の確認と共有のために現地協議を実施した。出席機関は、県文化振興・文化財課、県埋蔵文化財センター、県中北建設事務所、株式会社富士グリーンテック（本施工業者）、曾根丘陵公園指定管理者であった。

上記の現地協議にて施工内容に不備がないことを確認できたため、後日完了検査を実施して工事を完了した。



第 32 図 現地協議の様子



第 33 図 完了検査の様子

### ⑥災害復旧工事前後状況



第 34 図 災害復旧工事施工前 1



第 35 図 災害復旧工事完了後 1



第 36 図 災害復旧工事施工前 2



第 37 図 災害復旧工事完了後 2



第 38 図 災害復旧工事施工前 3



第 39 図 災害復旧工事完了後 3

### 第 3 節 工事後の経過

植生マット設置後一か月で草葉が芽吹きはじめた。また、新たな倒木や法面の崩落等も見受けられず、工事経過としては順調な状況と思われる。



第 40 図 工事後の経過 (令和 2 年 9 月撮影) 1



第 41 図 工事後の経過 (令和 2 年 9 月撮影) 2



第 42 図 工事後の経過 (令和 3 年 2 月撮影) 1



第 43 図 工事後の経過 (令和 3 年 2 月撮影) 2

## 第5章 まとめ

崩落箇所への植生マットを設置し、今後倒木する可能性があった樹木の伐採を実施することができ、史跡の復旧と毀損の予防を施すことができた。しかしながら今回の事業は、災害復旧であり、あくまで緊急的な工事業である。

そのため、今後も定期的な経過観察を含めて史跡の管理を進めていきたい。また史跡全体の整備・保存のためには、将来的に保存活用計画を作成し、計画的に史跡の保存と活用を実施していく必要があり、課題である。

大丸山古墳は国史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳と同様、山梨県はもとより東日本を代表するような古墳時代前期の前方後円墳である。地域の誇りとなるような史跡を目指し、保存と活用を進めていくことが目下の目標である。

### 参考文献

- 上田三平 1942 「大丸山古墳主體部構造の特異性」『考古学雑誌』第23巻第9号日本考古学会
- 河野正訓 2014 「柄付手斧の系統」『七観古墳の研究—1947年・1952年出土遺物の再検討—』七観古墳研究会
- 河野正訓 2018 「農工漁具」『前期古墳を再考する』中国四国前方後円墳研究会 六一書房
- 北山峰生 2011 「割竹形石棺・船形石棺・長持形石棺」『墳墓構造と葬送祭祀』古墳時代の考古学3 同成社
- 後藤守一 1937 『古墳発掘品調査報告』東京帝室博物館
- 小林行雄 1957 『河内松岳山古墳の調査』大阪府文化財調査報告書5 大阪府教育委員会
- 小林健二 2009 「大丸山古墳の埋葬施設について—調査報告書『甲斐大丸山古墳』から—」  
『山梨考古学論集』VI 山梨県考古学協会
- 阪口英毅 2007 「紫金山古墳出土武具の再検討」『紫金山古墳の研究—墳丘・副葬品の調査—』  
京都大学大学院文学研究科
- 澤田秀美 2004 「竪矧板革綴短甲について」『前方後円墳時代の首長ネットワークに関する多角的研究』  
平成12～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究C一般）研究成果報告書
- 塩谷 修 2007 「第5章 採集された土師器」『甲斐大丸山古墳—埋葬施設の調査—』博古研究
- 末永雅雄 1933 『日本上代の甲冑』本文編
- 仁科義男 1931 「大丸山古墳」『山梨県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯 山梨県
- 橋本達也 1998 「竪矧板・方形板革綴短甲の技術と系譜」『青丘学術論集』  
第12集 財団法人韓国文化研究振興財団
- 橋本達也 2018 「甲冑」『前期古墳を再考する』中国四国前方後円墳研究会 六一書房
- 茂木雅博 2007 『甲斐大丸山古墳—埋葬施設の調査—』博古研究会
- 宮澤公雄 1989 「鉄製柄付手斧について」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』  
第1集 帝京大学山梨文化財研究所
- 宮澤公雄 2019 「甲斐大丸山古墳の再検討（1）—主體部構造の再検討を通して—」  
『山梨考古学論集』VIII 山梨県考古学協会
- 三木文雄 1975 「大丸山古墳 新稿」『中道町史』上巻 中道町役場
- 山梨県編 1999 『山梨県史』資料編2 原始・古代2
- 山本三郎 2010 『竪穴式石室の研究 王権と埋葬施設』（博士学位請求論文）熊本大学

# 報告書抄録

ふりがな	くにしていしせきおおまるやまこふん							
書名	国指定史跡大丸山古墳							
副書名	災害復旧工事事業報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第329集							
編著者名	北澤宏明・中村有希							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL055-266-3016							
発行機関	山梨県							
発行日	2021年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村 コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
くに 指 定 史 跡 お お 丸 山 古 墳	甲府市下向山町 1338番地・ 1384番地	19201	中-80	35° 59' 22"	138° 58' 31"	20200708 ～ 20200828	約200㎡	災害復旧工事
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	古墳	古墳時代	なし		なし		(史)大丸山古墳(災害復旧)歴史生き生き!史跡等総合活用整備事業、大丸山古墳史跡復旧事業	

復旧事業要約	令和元年10月12日に全国各地で被害をもたらした台風19号により、史跡指定範囲内にある樹木が倒れ、雨水による浸食が発生したことにより史跡指定地の一部が崩落した。災害復旧工事を実施した。工事は、倒木の撤去と、今後の法面の崩壊を予防するために、強風等で倒木する可能性がある雑木の伐採を行った。また、崩落の進行を抑え地盤を安定させるために、崩落箇所に植生マットを設置した。
--------	---

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第329集

## 国指定史跡大丸山古墳

災害復旧工事事業報告書

2021年3月10日 印刷

2021年3月19日 発行

編集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

発行 山梨県

印刷 株式会社 峽南堂印刷所

